

振り返り



本市出身の喜納翼さんがパリパラリンピックへ出場したほか、科学技術研究では県立中部農林高校のメンバー等が、うるま市に感動を与えてくれました。

他市との交流も盛んであり、栃木県宇都宮市や東京都文京区及び友好都市連携協定を締結しました。

また、市のソウルフード「ティビチ料理」が、文化庁の「100年フード」に認定されました。

印象的だったイベントとしては、青年会が主体となり盛り上げたエイサーまつりです。県道75号線を、道ジュネー方式により開催し、約12万5千人の来場者で溢れ、にぎわいを創出しました。

また、「地域まちづくり応援事業」を活用し、各地域で開催された市民主体・市民参加型のイベントも活発に行われ、地域のパワーで盛り上がった1年でした。

令和7年度施政方針

令和7年度はうるま市市制20周年の年です。これも、市民並びに市議会の皆様の温かな支えとご協力があってこそだと深く感謝しております。

新たなステージへ向け、市民一人ひとりがこのまちのありのまを誇りに思い、ともに市内外に本市の魅力を発信していく一年にしてまいります。



うるま市長

中村正人

予算



令和7年度の予算編成につきましては、前年度から引き続き、「総合体育館整備事業」、「新石川調理場整備運営事業」、「沖縄県消防指令センター整備事業」、「火葬施設老朽化対策事業」及び「勝連城跡周辺整備事業」に関する予算を計上するほか、防災・減災対策事業の予算などを併せて計上しているところです。

また、物価高騰対策関連予算を措置するほか、青年会エイサーの県外派遣や地域特性を活かした祭りなど、市を元気にするための意欲的な予算編成を行っております。

その結果、令和7年度の一般会計予算は、83.1億8,241万5千円となり、前年度に比べ13.5%の増で、特別会計予算、企業会計予算を含めた総予算額は、1,245億1,673万6千円となっております。

感動産業特区

本市は、あらゆる人が輝き、感動にあふれた「感動産業特区」を推進していくにあたり、本市特有の自然や文化、歴史、食などをありのまま、「まんまうるま」として大切にしてまいります。

そして、市民や事業者、観光客など、本市に関わるすべての人が感動の源泉となり、ともに「感動産業特区」の将来像である「ここにしかない感動に触れること」で心が満たされる、世界で唯一無二の地域「のまちづくり」を目指します。

